

親馬鹿

帝キネ現代映畫

原作並脚色者 紅谷香之助

監督者 小國狂二

撮影者 内田政雄

主要役割

大學生 花木健三

妹 美代子

母 お民

從妹 八重子

叔父 幸兵衛

車夫 鶴さん

その妻

美代子の許婚 宇都木

解説 小國狂二氏の「怪兇刃」に次ぐ作品である。

野澤英子

問津英子

小島洋子

吉田照子

尾崎静子

高津愛子

藤間林太郎

略筋——叔母の家に寄寓して勉學中、從兄健三の子供を宿した八重子は健三と相談の上下宿に移り住み、生れた子供は途中で出會つた車夫の鶴さんに預けたが、互に住所を名乗り合ふ事を忘れた爲め、鶴さんは養育料の事から女房と喧嘩をなし、遂に夫婦別れとなつた。鶴さんは自分の子と預つた子を連れて客を待つてゐた。所へ八重子に逢いたさに田舎からやつて来た父幸兵衛は偶然にも鶴さんの車に乗つたので八重子と健三の事はすっかり判つて了つた。最初我子に限つては信じてゐた兩方の親達も結局笑つて二人の結婚を許してくれた。同時に健三の妹と許婚宇都木との結婚、ついで鶴さん夫婦の仲直りも目出度く行はれたのであつた。